

第 18 期 pES club step4 大会看護学生シナリオ

令和元年 6 月 30 日
聖路加国際病院 外科病棟看護師
牧山 ひかり
JCHO 東京城東病院 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは海老伝巢医科大学附属病院外科病棟の 1 年目看護師です。

模令虎丸さん（59 歳男性）は、数ヶ月前に職場検診にて PSA 高値と指摘されました。経会陰的前立腺針生検を受けたところ、前立腺癌と診断されたため、ロボット支援下前立腺全摘術施行目的に予定入院しました。

入院当日の模令さんは、「まさか自分が癌になるとは…って感じだったけど、手術が出来ることがありがたいよね。やっぱり不安や緊張はあるけど、先生や看護師さんにすべてお任せします。仕事もあるから、合併症を起こさずに、予定通り退院できれば嬉しいな。あまり会社を空けるわけにもいかないんだよ」と話していました。

模令さんは、現病歴に無症候性脳梗塞、睡眠時無呼吸症候群があります。大手企業の役員を務めており、妻（55 歳）、娘（27 歳）と同居しています。

手術は予定通り施行されました。術後の離床も問題なく進んでいて、本日は術後 4 日目です。挿入物は膀胱留置カテーテルのみで、現在の ADL は全自立です。術後 5 日目に膀胱留置カテーテルを抜去し、排尿状況を確認し次第、問題なければ術後 6 日目に退院予定です。

主治医から「明日、模令さんの膀胱留置カテーテルを抜くから、今日、抜去後の生活指導をしておいてください」と指示を受けたあなたは、模令さんの病室を訪れました。模令さんは「あ～、そういえば外来で管抜くと尿漏れがどうのこうのって言われたな～」という反応でした。

模令さんの認知レベル、社会的地位・背景、年齢を考慮しながら、前立腺全摘術において、どのような排尿障害が、なぜ起こるのかを説明し、生活における注意点を含めた退院指導を行ってください（10 分間）。